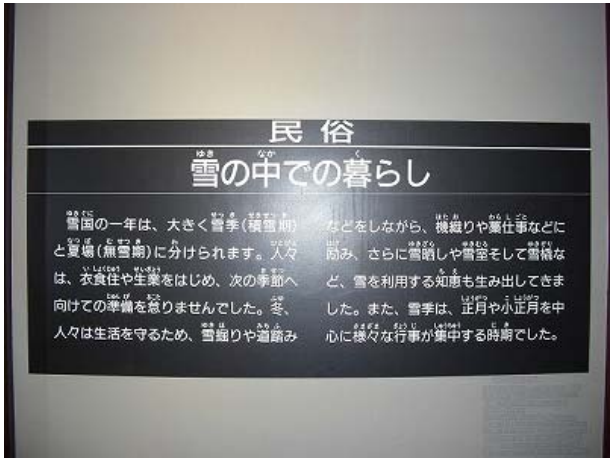
十日町駅

自然
大河・信濃川―川の幸と川漁―

十日町駅
TOKAMACHI
ゆめぞら

原始
旧石器時代
この地方に初めて人間の足跡がしるされたのは、今から約2万年前、ウルム氷期の最盛期のことです。寒冷な気候の中、見晴らしの良い台地上で、狩猟・採集による生活が営まれました。ナイフ形石器や彫器など石刃技法を用いた道具は、やがて尖頭器、細石器へと発達しました。月の満ち欠けや季節にあわせて労働したり、石材を遠くまで採りにいくなど、すでに高い能力をもっていました。
ナウマンゾウ狩り


民俗
雪の中での暮らし
雪国の一年は、大きく雪季（積雪期）と夏場（無雪期）に分けられます。人々は、衣食住や生業をはじめ、次の季節へ向けての準備を怠りませんでした。冬、人々は生活を守るため、雪掘りや道踏みなどをしながら、機織りや藁仕事などに励み、さらに雪晒しや雪室そして雪橋など、雪を利用する知恵も生み出してきました。また、雪季は、正月や小正月を中心に様々な行事が集中する時期でした。

国宝指定書
右を国宝に指定する
平成十一年六月七日
文部大臣 有馬朗人

縄文ムラのくらし
冬の一日
縄文時代中期（約4500年前）
縄文時代は現在と同じくらいたくさんの雪が降りました。人々は家を守るために雪掘りをし、晴れ間をみては狩りに出かけたことでしょう。獲物は秋に貯えた木の実などとともに越冬用の貴重な食料となりました。

十日町市博物館